

熊本地域乗合バス事業共同経営 に関する状況報告

令和4年（2022年）3月
九州産交バス(株)、産交バス(株)、熊本電気鉄道(株)、
熊本バス(株)、熊本都市バス(株)

- 1** 共同経営計画（第1版）の進捗報告
- 2** IC共通定期券の導入（2022年4月1日）
- 3** 共同経営の展開（2022年度以降）

1 共同経営計画（第1版）の概要

2

申請者

- (1) 九州産交バス株式会社 (4) 熊本バス株式会社
(2) 産交バス株式会社 (5) 熊本都市バス株式会社
(3) 熊本電気鉄道株式会社

共同経営の概要

- ①旧3号線方面の最適化〈植木・山鹿方面〉
- ②川尻市道方面の最適化〈川尻・松橋方面〉
- ③産業道路・国体道路方面の最適化〈長嶺方面〉
- ④旧57号線方面の最適化〈楠・大津方面〉

共同経営の目標

①収益性・効率性の向上

重複区間の効率化等により、収益性は約31万円の改善、サービス維持に必要な人員5.6人/日・車両4.7台/日の軽減

②サービス提供維持の目標

利用者利便の水準を維持しつつ、対象55系統のサービス維持

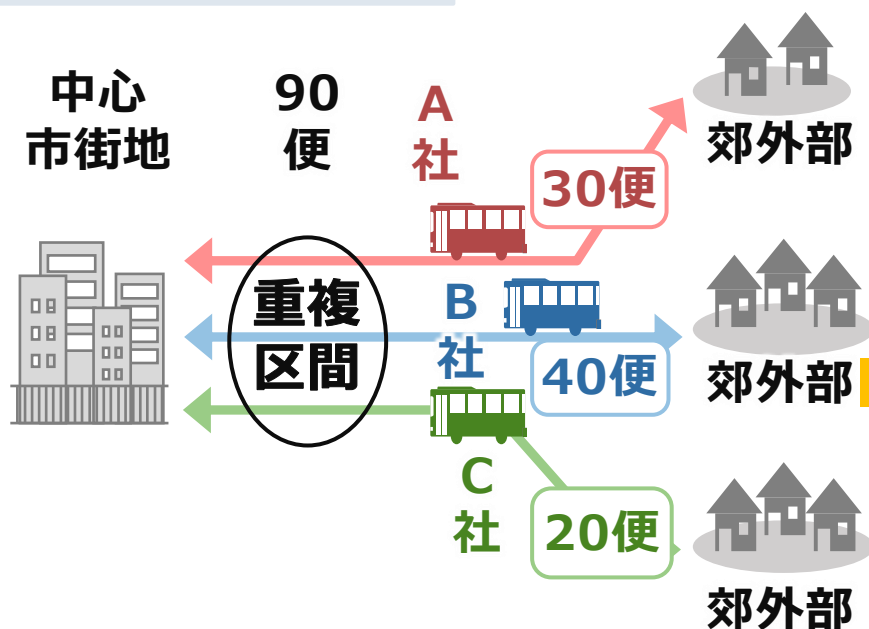
実施期間

令和3年4月1日～令和6年3月31日までの3年間



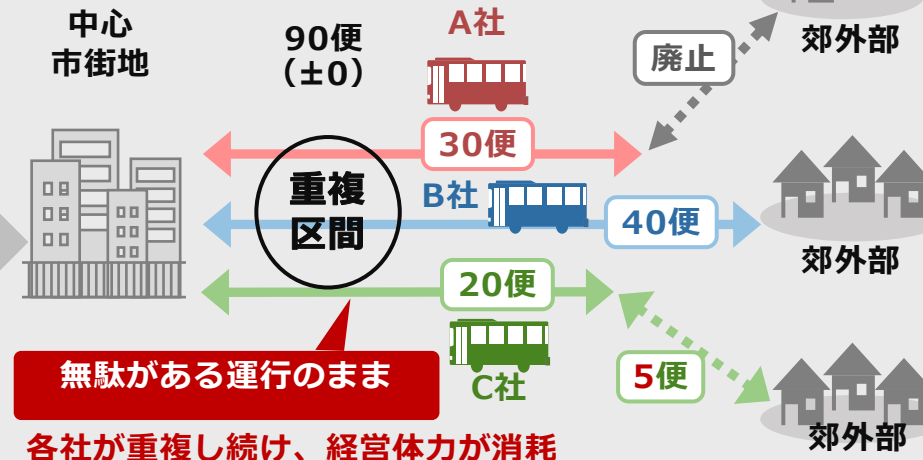
①重複区間の需給バランス調整と待ち時間の平準化

現状（これまで）

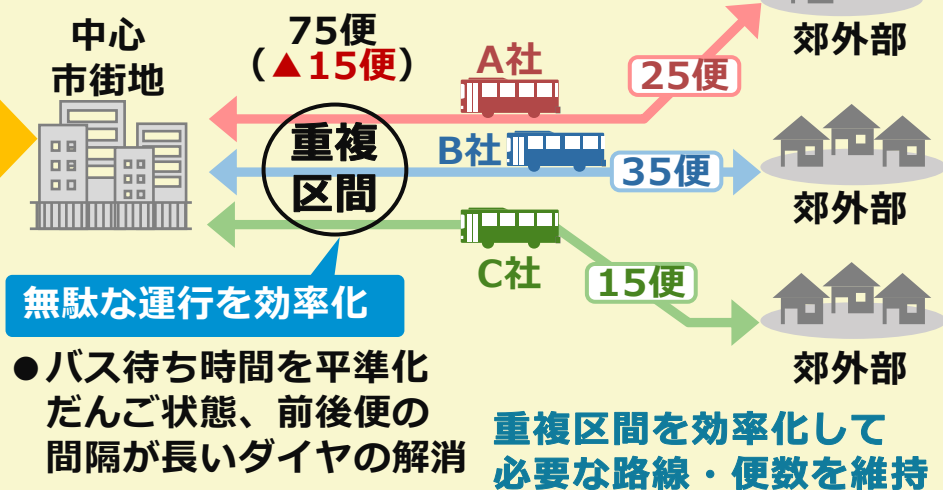


共同経営しない将来

郊外部などで路線の廃止
や減便が発生



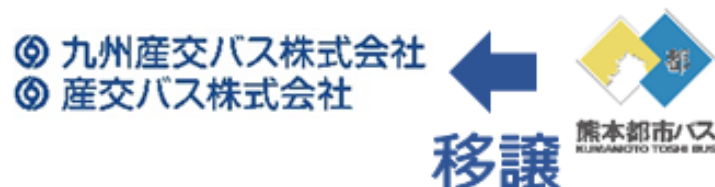
共同経営する将来



②方面別の運行会社の再設定

旧3号線

九州産交バスに運行分担



川尻市道

九州産交バスに運行分担



産業道路・国体道路

熊本都市バスに運行分担



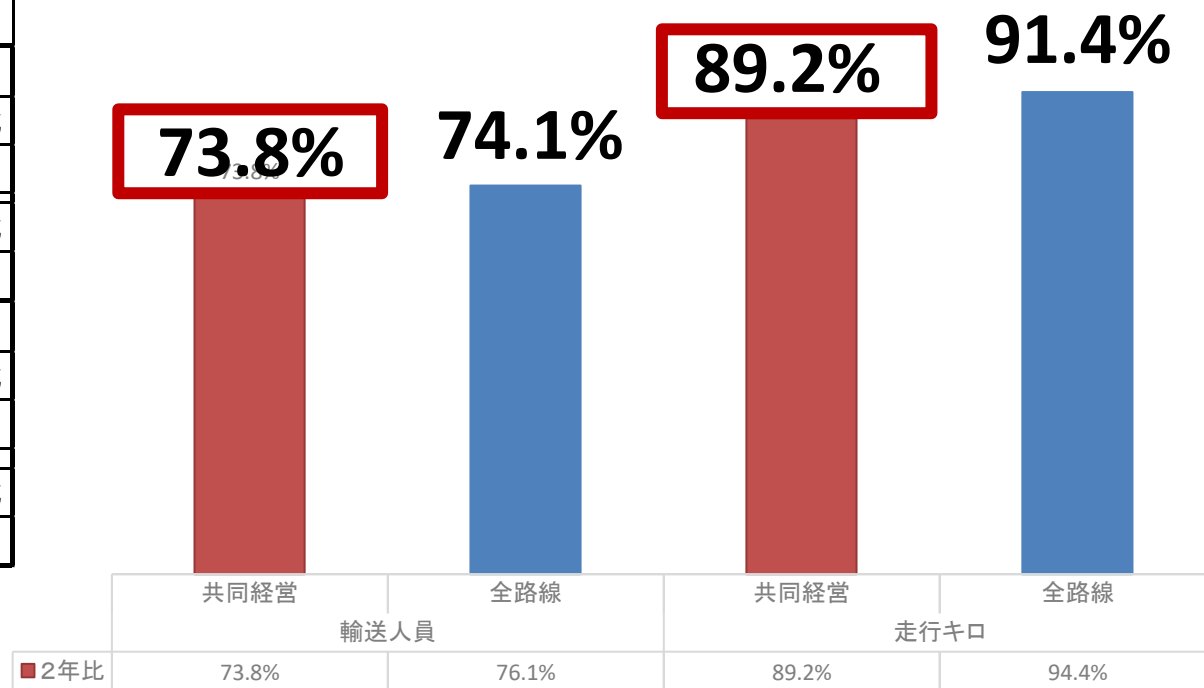
旧57号線

2社協調のサービス提供



2021年4～2022年1月と2019年4～2020年1月を比較した割合

各年4月～翌年1月までの累計比較				
輸送人員（バス利用客数）（人）				
共同経営 対象路線		2019年	2021年	前々年比
	計	5,097,963	3,761,376	73.8%
全社 全路線		2019年	2021年	前々年比
	計	22,968,352	17,029,035	74.1%
走行距離（km）				
共同経営 対象路線		2019年	2021年	前々年比
	計	3,426,323	3,056,767	89.2%
全社 全路線		2019年	2021年	前々年比
	計	22,708,264	20,758,324	91.4%



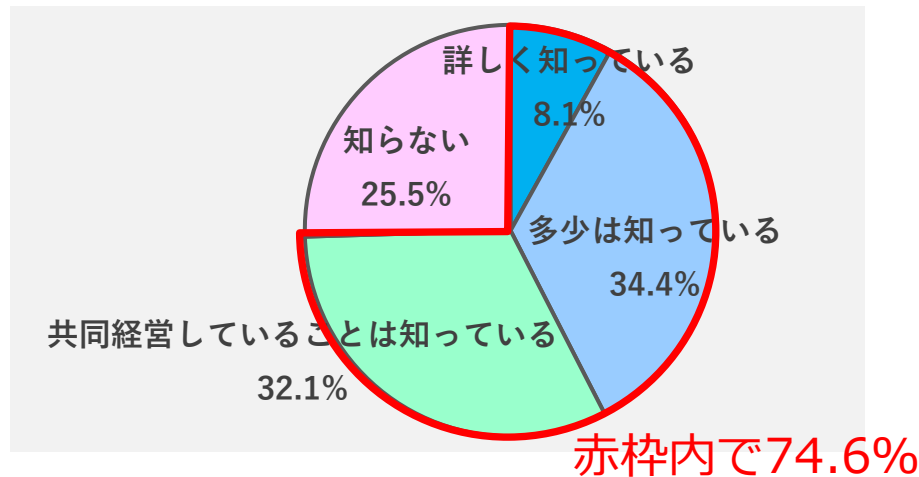
共同経営の対象路線は、全路線と比較して、走行キロを抑制しつつ、輸送人員（利用客数）は同水準を維持していることから、一定の効率化が図られている。

1 共同経営計画（第1版）アンケート結果（R3年7月実施）

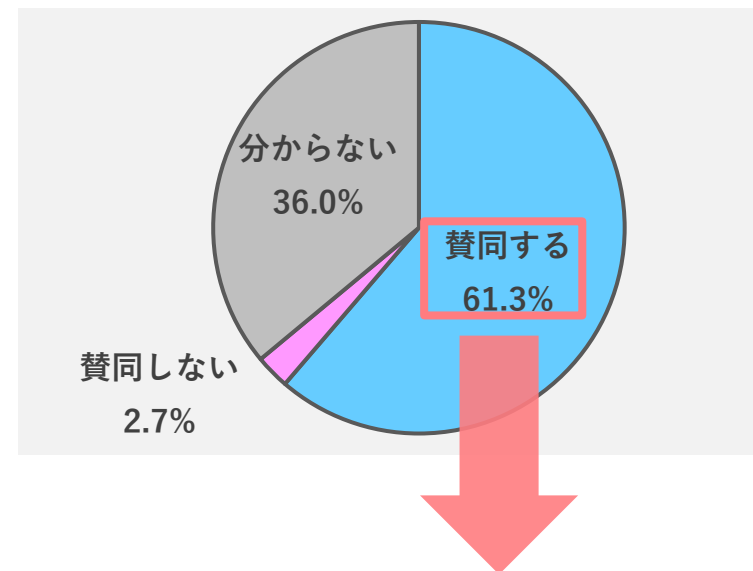
6

バスの利用者において、共同経営の認知度は7割以上、共同経営の取組について賛同する方は61%の結果となった。賛同されている方の多くは、サービスが維持されている事を評価している。

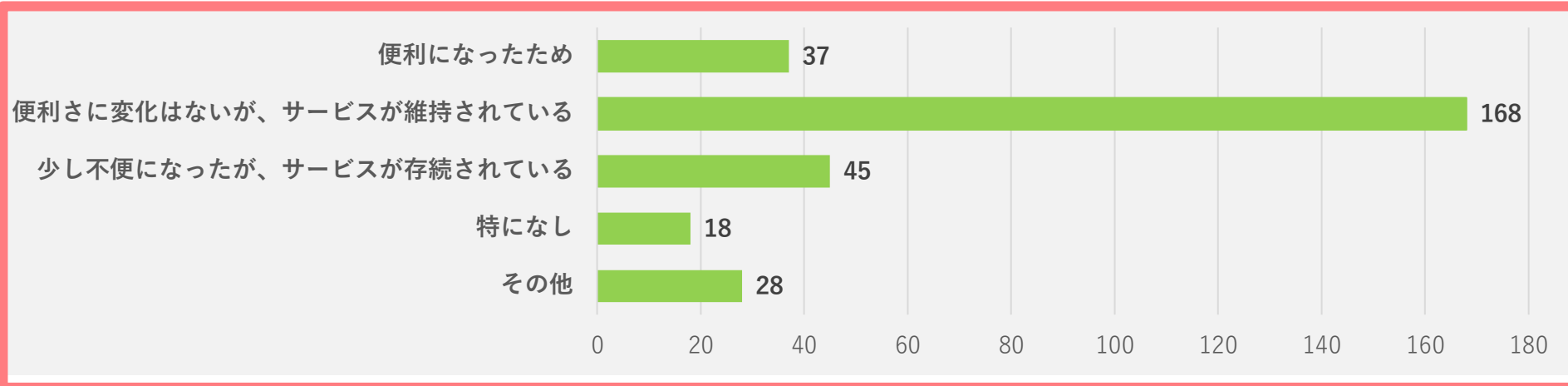
共同経営の認知度（n = 483）



共同経営の取組（n = 483）



賛同する理由（n = 296）



1 共同経営計画（第1版）アンケート結果（R3年7月実施）

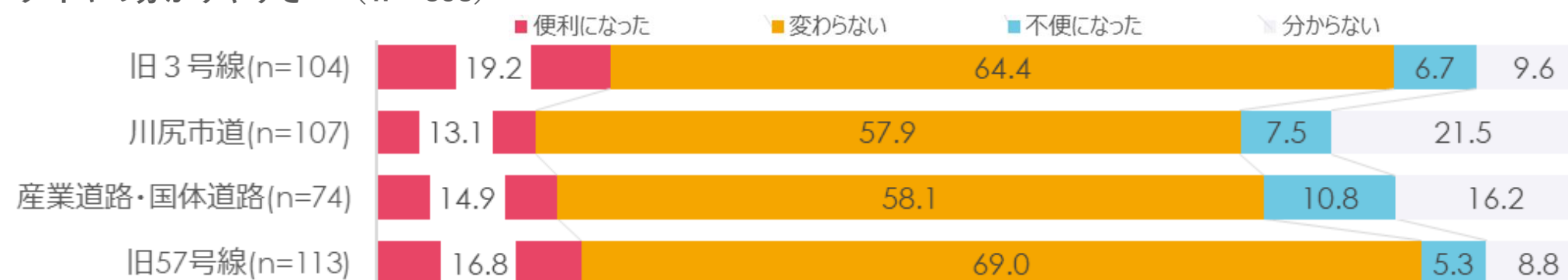
7

需給バランスの調整により、利用できる便数については『不便になった』という回答を20%～30%頂いているが、待ち時間の平準化により、ダイヤの分かりやすさについては『便利になった』という回答を一定程度頂いている。

利用できる便数（n = 398）



ダイヤの分かりやすさ（n = 398）



路線バス共同経営の象徴的な取り組みとして

2022年4月1日 熊本県下全域 くまモンのICカードによる共通定期の実施

- IC定期券の区間内は、どの会社の路線バスでもご利用が可能となり、利便性が飛躍的にアップします！
- 併せて、バス事業者間での乗継定期券のサービスも開始し、2枚必要だった定期券が1枚でご利用できるようになります！

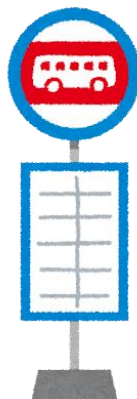


券面イメージ

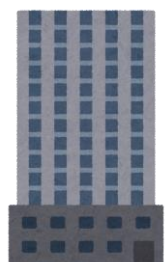
共通定期の具体的な利用イメージ ～桜町から熊本県庁方面～

これまでの定期券

熊本バスや熊本都市バスのバスもあるのに、定期の会社のバスしか乗れないのは不便だわ・・・



桜町バスターミナル



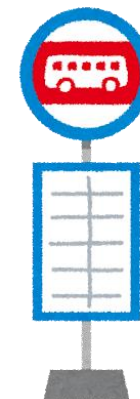
県庁前

産交バスの定期をお持ちの場合
利用可能便数
105便

※便数は平日片道

4月1日以降販売の定期券

全ての会社のバスが利用できるようになったので、とても便利になったわ！



桜町バスターミナル



県庁前

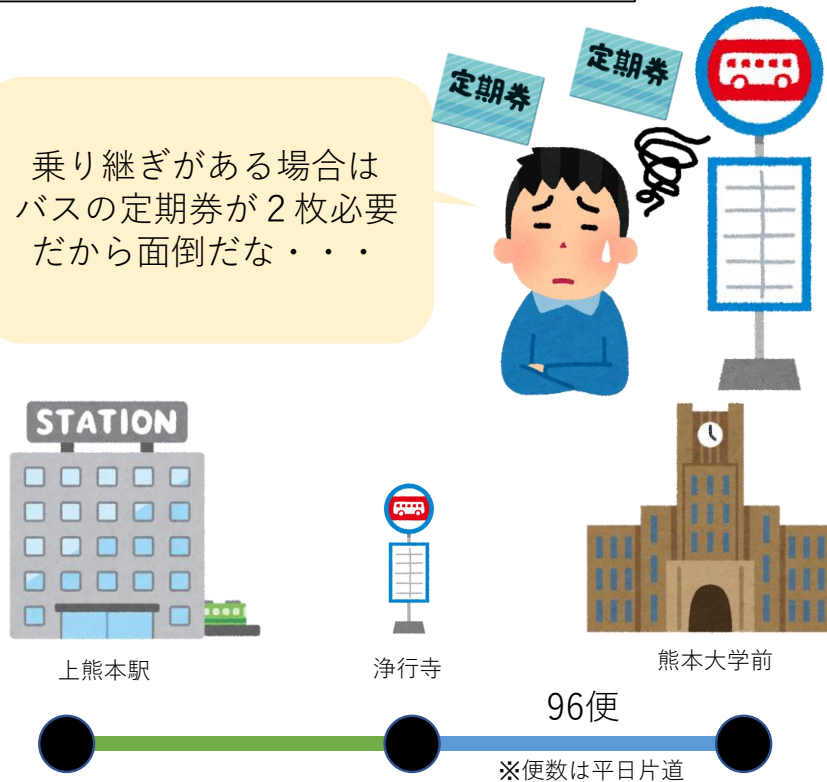
熊本バスや熊本都市バスも利用可能になり
利用可能便数
153便に 46%UP

※便数は平日片道

共通定期の具体的な利用イメージ ～浄行寺方面(乗り継ぎ)～

これまでの定期券（上熊本駅～浄行寺）

乗り継ぎがある場合は
バスの定期券が2枚必要
だから面倒だな・・・

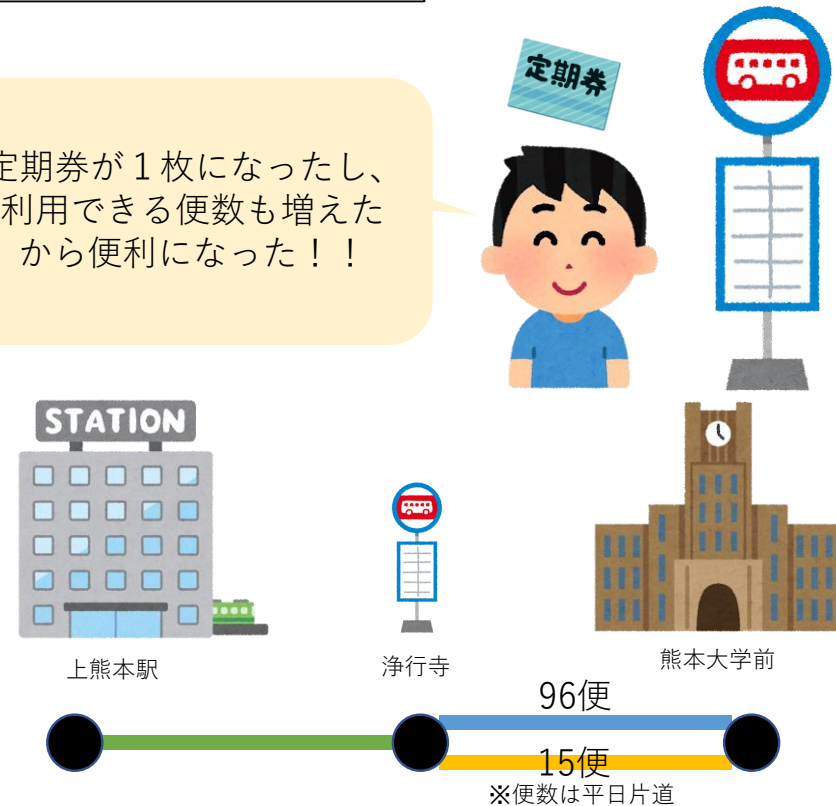


「上熊本駅～浄行寺」
「浄行寺～熊本大学前」 2枚の定期が必要

※片道運賃を足し合わせて0.9を掛けて算出

4月1日以降販売の定期券

定期券が1枚になったし、
利用できる便数も増えた
から便利になった！！



「上熊本駅～熊本大学前」
1枚の定期でご利用可能に！
便数も16%UP

※浄行寺～熊本大学前間は九産交バスと熊本電気鉄道が運行しているため

熊本地域における公共交通ネットワークの利便性・生産性を最大限向上していくため、県内バス事業者5社が企業間の垣根を超えてあらゆる取組みを実施していく。

- 1 共同経営計画（第2版）の策定・実施**
- 2 路線バス利用者増に向けたマーケティング戦略策定**
- 3 自家用車から公共交通転換を目指す研究への積極的な参加**
NICT Beyond 5G研究開発促進事業 研究代表 伊藤昌毅氏（東京大学）
- 4 バス利用者の信頼を得るためのバス運行時分適正化**
- 5 「バス・電車子ども無料（大人100円）の日」の企画実施**
- 6 熊本市「まちなかループバス」の（試行）運行継続**



共同経営事業を着実に進め、県民市民の皆さんの移動手段の確保に努めていく

2 路線バス利用者増に向けたマーケティング戦略策定



課題と 解決手法

・路線バス事業の大きな課題の一つである利用者の減少に対し、マーケティング分析（どんな利用客に、どのような価値を、どのように提供するのか？）を用い、詳細を分析して、実行目標を定める。

3 自家用車から公共交通転換を目指す研究への積極的な参加 NICT Beyond 5G研究開発促進事業 研究代表 伊藤昌毅氏（東京大学）



課題と 解決手法

・熊本都市圏の抱える慢性的な道路渋滞問題と、他都市に比較して公共交通の利用率が低いことを課題と捉え、これを改善する方策を探る。
・NICT（情報通信研究機構）の採択事業と連携し、東京大学大学院情報理工学系研究科准教授 伊藤昌毅氏らの協力を得る。

4 バス利用者の信頼を得るためのバス運行時分適正化



課題と 解決手法

・ 熊本県「2021年県民アンケート調査報告書」によれば、路線バスに、サービス改善（路線・ダイヤ・便数・運賃・情報提供等）を求められている県民が全体の56.6%おられ、過半数を占めている。

- ・ 路線バスは、道路事情により遅延が発生することもあり、利用客の満足度を下げる大きな要因となっている。
- ・ 過去の遅延実績データを基に、適切な運行時分を設定し、利用客の満足度を上げる対策を行う。